社会科(歴史的分野)学習指導案

日　時　令和7年11月21日（金）
第５校時　13:35～14:25
学校名
対　象　第２学年　　組　　名
会　場　１　階　多　目　的　室
授業者

１　単元名

近世の日本 -江戸幕府の成立と対外関係-（「新しい社会　歴史」 東京書籍）

２　単元の目標

- 江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解する。
- 交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。
- 近世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

３　単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。	①　交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	①　近世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

４　指導観

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領（平成29年３月告示）「第２章　第２節　社会　第２　各分野の目標及び内容　歴史的分野　２　内容　B　近世までの日本とアジア」　「(3)　近世の日本、３　内容の取扱い(3)」について取り扱ったものである。その内容及び内容の取扱いについては、次のように示されている。

２　内容

B　近世までの日本とアジア

(3) 近世の日本

課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識を身に付けること。

(ｱ)　世界の動きと統一事業

(ｲ)　江戸幕府の成立と対外関係

江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解すること。

(ｳ)　産業の発達と町人文化

(ｴ)　幕府政治の展開

イ　次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ｱ)　交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、アの(ｱ)から(ｴ)までについて近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現すること。

３　内容の取扱い

(3) 内容のＢについては、次のとおり取り扱うものとする。

ウ　(3)のアの(ｲ)の「鎖国などの幕府の対外政策と対外関係」については、オランダ、中国との交易のほか、朝鮮との交流や琉球の役割、北方との交易をしていたアイヌについて取り扱うようにすること。その際、アイヌの文化についても触れること。「幕府と藩による支配」については、その支配の下に大きな戦乱のない時期を迎えたことなどに気付かせること。

この中項目のねらいは、主題を設定し、課題を追究する活動を通して、近世社会の変化の様子を、当時の交易、統一政権の諸政策、産業や文化、幕府の政策の変化などと関連付けて、多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することである。

本単元では、江戸幕府の成立とその対外関係について扱う。生徒は、戦国の混乱を収束させた徳川家康による幕府の創設と、安定した支配体制を築く過程で展開された外交政策を中心に学習を進める。学習においては、歴史的事象を「背景・目的・結果」の視点から整理し、国内外の政治・社会・文化の相互作用に着目する。江戸幕府がどのようにして国内の秩序を維持し、対外的な脅威や影響に対応したのかを追究することで、社会の変化や課題に主体的に向き合う力を育てる。単元を貫く問いとして、「なぜ江戸幕府の支配は約 260 年間も続くことができたのか。」を設定する。この問いを通して、幕府と藩によって日本全国における支配体制が確立したことを考察させる。また、鎖国政策によって生まれた地域的な特色にも着目し、「背景・目的・結果」を整理しながら歴史的事象を捉える力を育成する。

このような学習活動を通じて、生徒の歴史的事象を主体的に捉える力を養い、学習において「背景・目的・結果」を整理しながら、社会的事象を深く考察する力を育てていく。

(2) 生徒観

本単元に関連して、生徒は小学校第６学年において、江戸幕府の成立と当時の社会の形成について学習している。特に、徳川家康をはじめとする初代から３代目までの将軍に注目しながら、政治の仕組みや社会の様子について理解を深めてきた。また、対外関係についても、北海道（アイヌ民族）や沖縄（琉球王国）、ヨーロッパや東アジアとの交易があったことを学習している。

単元開始前に実施したアンケートでは、「社会科の授業に前向きに参加できそうか」という問いに対し、約９割の生徒が「参加できる」「どちらかというと参加できる」と回答した。また、「社会科の授業で自分の視野や考え方は広がっていると思うか」という問いには、約95%の生徒が「そう思う」「どちらかというとそう思う」と答えており、社会科の授業を通じて自己の見識を広げられると認識していることが分かる。

さらに、「自ら学び考えることができる授業は、学習活動として効果的だと思うか」という問いに対しても、約９割の生徒が肯定的な回答をしており、自ら見通しをもって行動し、振り返りを行う学習方法が、生徒の意欲的な学びを促す効果的な授業であると感じていることが分かった。

「江戸時代のことについて知っていることを挙げてください」という問いでは、「徳川幕府」「参勤交代」「鎖国」「踏絵」など、本単元に関連するキーワードが挙げられた。一方で、全体の約半数の生徒が「わからない」や「織田信長が活躍した時代」「豊臣秀吉が築いた時代」といった回答をしており、歴史的な時代区分の認識が不十分である、あるいは誤認している生徒が多くいることも明らかとなった。

以上のような既習事項と生徒の実態から、本単元では基本的な知識の定着を図るとともに、自ら見通しをもって行動し、振り返りを行う学習方法を繰り返していく。また、歴史的事象について「背景・目的・結果」を整理しながら、基本的な知識を相互に関連付け、多面的・多角的に考察・表現することで、生徒が我が国の歴史認識を深められるようにしていく。

自力で学習を進めることが困難な生徒もいるため、学習端末を活用し、デジタル資料や共有された他者の意見を参照しながら学習を進められる環境を整え、生徒一人一人の理解が深められるようにする。

(3) 教材観

本単元では、単元観および生徒観を踏まえ、単元を貫く問いとして「なぜ江戸幕府の支配は約260年間も続くことができたのか。」を設定する。この問いを軸に、「背景・目的・結果」を整理しながら、基本的な知識を相互に関連付け、多面的・多角的に考察・表現することで、生徒が我が国の歴史認識を深められるような授業展開を目指す。その際に、生徒が単元全体の構造を把握し、単元を貫く問いを意識しながら、毎時間の振り返りや資料や意見共有の場として、授業支援ツールを効果的に活用する。これにより、各時間の学習成果を整理・振り返ることができたり、自分の任意のタイミングで他者の意見を参照、資料の閲覧や情報収集をしたりすることができる。自らの学習状況を把握しながら、学習の進め方を調整する力の育成につなげる。

また、自ら学ぶ生徒の姿を実現するために、一斉教授型の形態から、学習形態（個別学習・グループ学習など）を自ら選択して学習に取り組む環境をつくる。このことにより、生徒に学習における自己決定を促し、自ら学び考える生徒像の実現を図る。

５　年間指導計画における位置付け（全 40 時間）

	単元名	時数
2学期	B 近世までの日本 ⑶近世の日本 (ｱ)世界の動きと統一事業	6 時間
	B 近世までの日本 ⑶近世の日本 (ｲ)江戸幕府の成立と対外関係（本時を含む）	6 時間
	B 近世までの日本 ⑶近世の日本 (ｳ)産業の発達と町人文化	2 時間
	B 近世までの日本 ⑶近世の日本 (ｴ)幕府政治の展開	4 時間
3学期	C 近現代の日本と世界 ⑴近代の日本と世界 (ｱ)欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き	5 時間
	C 近現代の日本と世界 ⑴近代の日本と世界 (ｲ)明治維新と近代国家の形成	11 時間
	C 近現代の日本と世界 ⑴近代の日本と世界 (ｳ)議会政治の始まりと国際社会との関わり	4 時間
	C 近現代の日本と世界 ⑴近代の日本と世界 (ｴ)近代産業の発展と近代文化の形成	2 時間

６　単元の指導計画と評価計画（全５時間）

時間	目標	学習内容・学習活動	評価規準 （評価方法）
第1時	学習課題「江戸幕府は、どのように全国を支配したのだろうか。」 江戸時代の政治制度のあらましと、幕府による大名や朝廷の統制について多面的・多角的に考察し、表現する。	・　本時の学習課題の確認と学習形態の選択を行う ・　江戸時代の政治制度を資料を基に、その特徴を考え、プリントにまとめる。 ・　大名や朝廷の統制について大名配置図や史料の読み取りから、目的と特徴を考え、プリントにまとめる。	

		・　学習のまとめと学び方の振り返りを行う。	イ－① (授業支援ツール)
	単元を貫く問い 「なぜ江戸幕府の支配は約260年間も続くことができたのか。」		
	単元について見通しをもって、単元の学習課題を基に、予想を立てる。	・　本時の授業を基に単元を貫く問いに対する予想を立てる。	ウ－① (単元振り返りシート)
第2時	学習課題「江戸幕府は、どのようにして人々を支配したのだろうか。」		
	江戸時代の身分制度と武士、百姓、町人それぞれの職分や生活の様子を理解し、差別された人々がいたことについて多面的・多角的に考察し、表現する。	・　前時の振り返り、本時の学習課題の確認、学習方法の選択を行う。 ・　身分制度やそれぞれの身分の暮らしの様子について、資料から調べ、プリントにまとめる。 ・　史料から、幕府の人民統制の考え方を読み取り、プリントにまとめる。 ・　学習のまとめと学び方の振り返りを行う。	イ－① (授業支援ツール)
第3時	学習課題「江戸幕府の対外政策は、どのように変化していったのだろうか。」		
	島原・天草一揆以後に幕府がとった対策と、その影響を知り、対外政策を貿易の振興から鎖国へと方針を変えた理由を多面的・多角的に考察し、表現する。	・　前時の振り返り、本時の学習課題の確認、学習方法の選択を行う。 ・　幕府の対外政策の変化とその理由を史資料から調べ、プリントにまとめる。 ・　学習のまとめと学び方の振り返りを行う。	イ－① (授業支援ツール)
第4時 本時	学習課題「江戸幕府は国外とどのようにつながろうとしたのだろうか。」		
	オランダ、中国、朝鮮、琉球王国、アイヌとの関係について多面的・多角的に考察し、表現する。	・　前時の振り返り、本時の学習課題の確認、学習方法の選択を行う。 ・　幕府と国外勢力との関係性について、史資料から、当時の外交拠点（薩摩、長崎、対馬、松前）ごとに相手勢力との関係性を調べ、プリントにまとめる。 ・　学習のまとめと学び方の振り返りを行う。	イ－① (授業支援ツール)

第5時	なぜ江戸幕府の支配は約260年間も続くことができたのかについて多面的・多角的に考察し、表現する。	・　授業支援ツールで作成した問題を解き、この単元における知識の定着を図る。 ・　単元を貫く問い「なぜ江戸幕府の支配は約260年間も続くことができたのか。」について、これまでの学習を基に解答を単元振り返りシートに作成する。 ・　単元を通した自分自身の学び方の振り返りを単元振り返りシートに記入する。	ア－①（授業支援ツール） イ－①（単元振り返りシート） ウ－①（単元振り返りシート）

7　指導に当たって

班テーマ　「自ら考え学ぶ生徒の育成～問いの設定と指導の手立て～」の実現に向けて、以下のように工夫を行った。

(1)「自ら考え学ぶ生徒の育成」について

様々な技術が目まぐるしく進歩し、グローバル化が急速に進展する変化の激しい時代においては、主体的に物事と関わりながら、自ら課題を見つけ、意識し、学び、その課題解決に意欲的に取り組む力が、これからの社会を生き抜くために必要不可欠である。

そこで、指導にあたっては、ＯＥＣＤがEducation2030プロジェクトで提唱した「ＡＡＲサイクル」を意識した授業づくりを行う。「ＡＡＲサイクル」とは、「Anticipation（見通し）・Action（行動）・Reflection（振り返り）」の頭文字を取ったものであり、この一連の活動を繰り返すことで、主体的な学習者の育成を目指すものである。本時の指導では、このサイクルを意識し導入で見通しをもたせ、学習形態を選択し内容を学び（行動）、授業支援ツールで本時の振り返りを行うという一連の流れの構築に利用した。

(2)「問いの設定」について

生徒が社会的事象を自分事として捉え、主体的に学びを深めていくための問いの設定が重要である。社会科の授業においては、社会的事象の背景や相互の関連性に着目しながら、課題を発見し、探究する力の育成が求められている。効果的な問いは、生徒の興味・関心を引き出し、学習の見通しをもたせるとともに、学習後の振り返りを通じて思考を深める契機となる。「なぜ」「どのように」といった問いを用いることで、多面的・多角的な視点からの考察が促され、思考力・判断力・表現力の育成につなげる。また、単元を貫くテーマとして問いを設定することで、学習の方向性を明確にし、生徒が自らの学びを構造的に捉えられるようになる。こうした問いを中心に据えた授業設計により、生徒の主体的な学びを支え、社会的事象への理解を深めていく。

(3)「指導の手立て」について

学習形態を一斉教授型にするのではなく、自ら学びを調整する学習方法にする。具体的には、学習の冒頭で前時の振り返りを行い、内容や学習方法を確認した上で、ねらいやキーワードを踏まえて学習形態（個別学習・グループ学習など）を生徒が選択する。その後、学習活動を行い、最後にその日の学習内容に沿った設問や振り返りを行うという構成で授業を展開する。このような活動を通して、生徒に内省を促し、自ら学び続ける力を育むことを目指す。

(4) 本時の内容の復習プリントについて

単元を通して基礎的・基本的な知識や技能の定着を図るために、各時間の終盤で本時の授業内容に関する短時間の復習プリントの活用を実施する。このプリントは、本時に学習した内容を問う問題で構成し、生徒が自身の理解度を振り返る機会とすることを目的としている。プリントへの解答の際には合わせて模範解答を配布し、解答後即時にどの程度学習内容が定着したかを確認できるようにする。生徒は毎時間の結果をファイリングすることで、学習の積み重ねを可視化する。これらの記録は、単元終了時に行う学び方の振り返りと関連付けて活用し、自らの学習状況の変化や傾向を客観的に捉える手がかりとする。こうした取組を通じて、生徒一人ひとりが自己調整の力を働かせ、自らの学び方を見つめ直し、主体的な学びの実現へつなげていく。

８　本時（全５時間中の第４時）

(1) 本時の目標

・ オランダ、中国、朝鮮、琉球王国、アイヌとの関係について史資料を基に調べ、その関係性を多面的・多角的に考察し、表現する。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容　・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 10 分	○　前時の振り返り、本時の学習課題の確認、学習方法の選択。 ・　授業支援ツールを用いて、100 字程度で前時の内容をまとめる。	・　学習者用端末を立ち上げさせる。 ・　見本を作成し配布。学習内容の補完を行う。	
	・　授業支援ツールで配布した資料を基に、学級全体で学習課題と本時のキーワードの読み合わせを行う。	・キーワードとして「出島、唐人屋敷、風説書、朝鮮通信使、進貢船、朝貢貿易、琉球使節、蝦夷地、交易、和人支配」を提示する。	
	本時の学習課題 「江戸幕府は国外とどのようにつながろうとしたのだろうか。」		
	・　自分で学習形態の選択をして、移動する。	・　①個人で取り組む ②ペアで取り組む ③グループで取り組む の３通りから学習形態を選択できるように促す。	
展開 30 分	○　幕府と国外勢力との関係性を整理する。 ・　オランダ、中国とは正式な国交のない貿易関係であったこと、朝鮮とは正式な国交を結んでいたこと、琉球やアイヌに	・　机間指導を行う中で、書けない生徒には、該当史資料の読み取りの補助、まとめ方についての助言	

	対しては上位者としての支配を行おうとしていたことなどを、教科書、資料集から、当時の外交拠点（薩摩、長崎、対馬、松前）ごとに相手勢力との関係性を調べ、プリントにまとめる。	等を行う。	
まとめ 10 分	○　学習のまとめと学び方の振り返り ・　授業支援ツールを用いて、学習課題へのまとめと学習方法の振り返りを行う。 ・　復習プリントで、キーワードなど授業の要点を確認する。	・　机間指導を行う中で、書けない生徒にはまとめ方の助言を行う。 ・　見本を作成し授業後に配布。学習内容の補完を行う。	イ - ① （授業支援ツール）

（3）板書計画

10/21　第４時　鎖国下の対外関係 学習課題 江戸時代の日本は国外とどのようにつながっていたのだろうか。 授業の流れ ①前時の振り返り → ②本時の内容確認 → ③コース選択 → ④学習開始 → ⑤本時の振り返り	※スクリーンにプレゼンテーションソフトを用いて作成したスライドを提示する。

（4）授業観察の視点

ア　本時の学習内容は、本時の目標及び単元の目標を達成する上で適切な内容であったか。

イ　本時の学習活動は、「個別最適な学びと協働的な学び」の視点から見て適切なものであったか。

ウ　学習者用端末及び学習形態の選択は、「自ら学び考える生徒」を育む上で適切なものであったか。